



PT・OT・STさんって？



A. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士さんのことだよ。

PT(Physical Therapist)は、理学療法士、と呼ばれている職種だよ。運動指導を通してその人の運動機能の改善にかかわったり、特別な機器を使って、適切な部位を温めたり、電気を流したりという手段を通して運動機能の改善を図るようなかわりをしてくれます。

理学療法士の勤務するところはさまざまだけど、共通しているのは対象となる人の病気や怪我・障がいに対して、解剖学や運動学といった身体に関する学問を基に、その人に合った理学療法プログラムを作成して、より良い生活を送るためのお手伝いをする、という役割があるんだ。

「歩きにくい」や「動かすと痛い」といった、歩くや立つなどの基本的な動きやそれに伴う痛みなどを対象としているんだけど、それだけにとどまらないよ。歩けるようになった先にあるその人の生活を踏まえて、どのような生活を送りたいと思っているのか、なにかサービスを利用するべきなのか、ということまで考えてプログラムを作ってくれるんだ。ただ運動指導をするだけではなく、その人らしい生活に寄り添う理学療法を提供していくのもPTのお仕事なんだ。

あと、よく誤解されているんだけど、リハビリテーション＝理学療法、ではないよ。リハビリテーションの中に理学療法という手段があるだけで、場合によっては作業療法や言語療法と組み合わせて対象者に提供することで、生活にかかわっていくんだ。ここでも、[連携](#)が大切な要素になっているんだね。

OT(Occupational Therapist)は、作業療法士、と呼ばれている職種だよ。ここでいう作業っていうのは、着替えや入浴など生活に必要な動き、家事や仕事・趣味などその人の生活にかかわるすべての活動を「作業」と呼んでいるんだ。これらの「作業」を通してより良い生活が出来るように援助することを作業療法といっているんだね。

PTと同じように、運動機能に対してもプログラムを考えてくれるんだけど、それに加えて実際に料理をしたり、買い物に行ったりといった、より生活に沿った形の「作業」を通したリハビリテーションを提供してくれるんだ。

PTは、その人に合った形で「運動」を通してリハビリテーションを提供していく。
OTは、その人に合った形で「作業」を通してリハビリテーションを提供していく。

いちおうこのように区別はされているんだけど、実際には両者とも、その人を見て、触って、その人にとってそのときに必要なリハビリテーションを提供しているよ。
なので、PTは運動しか見られない、OTは作業しか見られないなんてことはないんだね。
どっちも運動も見ることができると、作業も見ることができるとは当たり前なこと、両方を含めて「リハビリテーション」ということなんだね。

ST(Speech-Language-Hearing Therapist)は、言語聴覚士、と呼ばれている職種だよ。
主に言語障がい・音声障がい・嚥下障がい・聴覚障がいに対しての専門家だね。

言語障がいは、上手く話せなかったり話の理解がむずかしかったりといった、コミュニケーション全体としての障がいを指しているんだ。

音声障がいは、いろいろな理由で声を出すことに問題があることだね。

嚥下障がいは、食べる・飲み込むといった機能の障がいのことだよ。

聴覚障がいは、難聴などの聞こえかたに障がいがあることなんだ。

声が出しにくい、言語が理解できない、食べ物を飲み込めない、聞こえにくいなどの原因を検査などを通して明らかにしてくれるんだ。

その上で、発声の練習や指導・飲み込むのに適した姿勢やポジショニングの指導や食事形態の助言、聞こえに対する提案なんかを行うんだよ。

PTやOTが担当している、歩く座るといった基本的な動きや、料理をしたり買い物に行ったりという作業は大切だよ。

STが担当している、会話などのコミュニケーションの手段や、生きるために必要な食べる機能も、同じように大切なことなんだ。

話す・聞く・食べるという機能も、関節や筋肉が関係しているため、身体の専門家であるリハビリテーション職のかかわれる部分なんだね。

STもPT・OTと同じく、身体の基本的な動きや作業にも関わってくれるんだけど、特に「言語・音声・嚥下障害・聞こえ」に対して強く関わってくれるのが言語聴覚士なんだよ。

また、これらの職種は専門的支援加算の対象にもなっているんだ。

《MENU》

《サービス提供記録ってなに？ サービスの利用者負担額のほかにお金はかからないの？》

2021-06-28 掲載